

管路管理研修会で最新技術を学ぶ

福 島 県
食品生活衛生課 AIを活用したソリューション紹介が



オンラインも含め69事業体から130人が参加した研修会



篠田氏



結城事業部長

象箇所を抽出し、現地調査を効率化する「アステラ・リカバ」と、AI機械学習アルゴリズムを用いて管路更新計画の最適化を支援するソフトウェア「アセット・アドバンス」について、それぞれ技術特許を有するイスラエルのユーティリス社、米国のオペティマティクス社と代理店契約を結んでいる。

結城部長は、多くの水道事業体では、漏水調査や管路の状態評価、更新計画の策定に、それぞれ少なくとも2年以上の期間をかけ、その間にGISデータは1年に1回程度しか更新されないため、まだ使用できる管路も対象に含めた更新計画を立ててしまい、工事に必要以上の人員や費用をかけていると指摘。

「AIやICT技術を積極的に活用し、眠っているGISデータを『活かした』データとして最大限に価値を引き出すことで、高度成長期に布設された管路の更新期を迎える日本が、世界に先駆けて最適な管路マネジメントのモデルを示すことができるのではないかと話した。

続いて、オペティマティクス社の篠田祐介氏が、アセット・アドバンスの特長と、米国のポートランド市水道局、デンバーウォーターにおける導入事例を紹介した。

アセット・アドバンスは、AIが数億通りの管路更新計画の中から、管路の劣化予測診断結果に基づき評価したリスクと、更新に要するコストが共に最小となる最適な組み合わせを提案する。また、更新対象管路の優先順位付けとバックゲージ化により、更新工事の費用や規模を最適化する。

グループディスカッションでは、漏水調査の実施状況と、管路更新計画の策定状況について意見交換した。

福島県食品生活衛生課は7月29日、福島市内で「福島県水道事業技術力確保支援事業・研修会（管路管理研修）」を開いた。県内の水道事業体をはじめ、青森、岩手、宮城、山形、栃木、茨城県

の69事業体から対面とオンラインを含め約130人が参加。AIを活用した管路管理の最新技術に関する講演と、管路管理の現状についてのグループディスカッションを通じて、業務の効率化に向けた課題認識を深めた。